

第2回第2次射水市中小企業振興計画検討委員会 会議概要

- 1 日 時 平成30年10月25日(木) 午前10時
- 2 場 所 射水市役所大島分庁舎 大会議室
- 3 出席者
委員長 中村 和之(富山大学経済学部 教授)
副委員長 八嶋 祐太郎(射水商工会議所 常議員)

(委員)

北山 誠(新湊信用金庫 常勤理事)
倉嶋 英二((一財)北陸経済研究所 総括研究員)
佐藤 春夫(富山県立大学地域連携センター コーディネーター)
谷畑 滋英((公財)富山県新世紀産業機構 事務局次長)
古谷 直樹(連合富山射水地区協議会 議長)
森 勇一(射水市商工会 理事(商工同友会長))
森川 博史(北陸銀行地域創生部 担当部長)
森永 達也(高岡公共職業安定所 所長)

(欠席)

菊地 正寛(富山県経営支援課 課長)
木村 雅子(射水市商工会 理事(女性部長))
笹谷 幸子(射水商工会議所 常議員(女性会会長))

(事務局)

産業経済部次長 竹内 美樹
商工企業立地課長 作道 賢次
商工企業立地課課長補佐 佐藤 昌宏
商工企業立地課商工労政係長 笠間 正和
商工起業立地課商工労政係主査 高木 忠史
商工企業立地課商工労政係主任 夏野 いつか
射水商工会議所経営支援課長 今井秀一
射水市商工会事務局長 武部 賢昭

4 会議概要

(1) 開会

(2) あいさつ

委員長 7月27日開催の第1回検討委員会で、計画の大枠を示した後、市民アンケート、ワークショップを経て各委員には骨子案を事前に送付し、大枠について了解を得たところである。

今回は、各種の項目について具体的な施策レベルでの素案を提示し、パブリックコメントへ向けたブラッシュアップを図りたい。

(3) 協議事項

素案について(資料1)

事務局 第2次射水市中小企業振興計画(素案)について説明。(第1章～第4章については前回と重複する内容のため割愛)

委員長 第5章は市民アンケート、ワークショップの結果が記載され、これを踏まえて、第6章で市内中小企業の課題を整理し、第7章で今後目指す方向性を提示している。具体的施策については第8章からとなっている。

まずは、第6、7章を見て、これで効果的に中小企業の振興が進むか、漏れはないかを確認する必要がある。また、第7章の将来像について検討が必要である。計画の根幹になる部分なので、質問があればお受けする。

1点、事務局に確認したい。「創業の促進」は様々なことと関係すると思われる。例えば、事業承継と創業は近い関係であり、起業マインドを持った人材の育成は、基本方針4の「人材育成及び人材確保の促進」とも関係する。「創業の促進」を基本方針1「経営革新及び創業の促進」としたのはどういった考えからか。

事務局 計画の基本方針の第一に経営革新を挙げている。経営革新は商工団体と連携し、幅広く施策を展開しているが、これには創業に関する施策も多く含まれている。今回、支援策を展開するにあたって経営革新と創業を一つにしたが、もちろん事業承継等他の部分も関係する。企業のライフステージを考えた場合、経営革新と創業を切り分けて考える方法もある。

委員長 基本方針1で整理したということであれば、これはこれで計画は進行すると思う。

- 副委員長 この計画内容は、射水市ではなくとも当てはまる。射水市の独自性をどのように考え、どのように表現していくのか。
- 事務局 地域経済の持続的発展への課題は、射水市のみならず他市でも抱えている。本市は5市町村が合併し、港町、里山等々を有しており、深い歴史に基づいて発展した多様性のある人材、企業、職業等が特徴である。その多様性をうまく包み込んで、企業を総体としてどう発展させるのかが、本市の目指すべき方向であると考えている。
- 副委員長 その考えと、資料にある2つのキーワードをつなぐとどうなるか。多様性を活かすということが持続的発展にどうつながるか。また、地域資源を活かすということと、どのようにつながるのか。
- 事務局 地域資源については、豊かな自然、地域特性もあり、これまで培ってきた多様性が各土地にあり、技術や先代の知恵、情熱等を含めて地域資源である。
- 副委員長 地域内経済循環のキーワードは入れないのか。
- 事務局 地域内循環は重要なキーワードであると考えている。地域企業、地域資源等を活かすことで、地域内循環を活性化させ、持続的な発展を目指していくという意味合いが含まれている。
- 副委員長 表現が教科書的になっていないか。「射水市らしさ」をキーワードとして活かしたものにしてみてもどうか。
- 事務局 本市の独自性を将来像で謳っていけるよう再検討する。
- 委員長 先ほど事務局から出た多様性ということを、もう一步踏み込むことで、おのずと射水らしさが出てくるだろう。射水市は工業・漁業に加え、高等教育機関も集積しており、暮らしやすく、また、様々な特徴がある。これらを詳細に記載するのではなくとも、イメージできるものを記載してはどうか。
- また、地域や時代の流れからみれば、持続的発展が求められるという認識は間違っていない。地域内循環が持続可能性につながると思うので、持続可能、地域内循環の意味が伝わるようなものが良いと思われる。最終的には、市民生活の向上が究極の目標であるので、それを目標とし、横軸で見た地域性、縦軸で見た時代の流れに沿ったものを創るのが良い。
- 個々の基本方針を定める上で各種調査結果を示しているが、これまでどういったパフォーマンスを挙げたのか検証することも大切である。将来像は長く表現せず、具体的な中身は基本方針等で表していけばよい。

今、射水市の経済状況は悪くない。事業承継や人口減少に伴う問題、人材不足など様々な課題を抱えつつも、伸びる余地はまだまだあると思われる。それらを整理していくと、将来目指すべきところが出てくるとと思われる。委員の皆さんにはこういった点も踏まえてご意見をいただきたい。

全体の計画作りに関する意見があったが、個々の論点に関することでもいいので、他にも意見を伺いたい。

委員

射水市の特性の良いところを維持しながら伸ばしていこうとする方向性、また、住む人、働く人、企業、町、経済的に言う家計、そして行政がトリプルウィンになろうという方向性を考えていると読み取った。そうすると、先ほど議論された「将来に渡る持続的発展」と「地域資源を活かした経済発展」と同じことを言っている気がする。

地域資源を活かし持続的に発展しながら、良いところを伸ばしつつ、人、地域、企業みんなでうまくやっていこうというところをもう少し整理されたらどうか。

委員長

今ほどの発言を踏まえると、将来像はより具体的なフレーズに収まるであろう。「将来に渡る持続的発展」「地域資源を活かした経済発展」「市民生活の向上に寄与」と言うのは、事務局が案として提示したキーワードであるが、もっと強調すべきもの、または外すべきものがある場合は、更に意見をいただければと思う。

今回の計画の特徴は、基本方針8の「勤労観及び職業観の育成」であると思われる。その他の方針は、市の最上位計画である総合計画等に概ね織り込み済みであるが、この方針はそれほど取り組んでこなかった。今回新たに加えるものである。次期総合計画にこの項目を反映させていこうとするのであれば、この計画において成果が挙げられるだけの仕組みづくりをしておかなければならない。

射水市での働きがい、働く意味、また、様々な職業の魅力や特性を小さい頃から理解してもらおうという取組は非常に重要である。詳細な手法まで総合計画に記載するものではないことを考えれば、今回の計画でしっかりと作り上げる必要がある。

副委員長

具体的に今回の計画に当たってのベンチマークとしたい都市は念頭にあるのか。

事務局 具体的に施策を倣うという都市は定めていないが、人口規模や地域特性なりを勘案したうえで、空き家対策や創業支援など、参考となる施策の考え方などについて、様々な先進事例を参考としている。

副委員長 自分達で考えているだけでは、アイデアも少ないと思うので様々な情報収集が必要であると思う。計画は、実行して初めて計画の意味があるもので、イメージしか伝えられないとお題目である。教育機関や商工団体は、そうした情報もたくさん知っているのではないか。ワークショップでもそのような意見が出なかったのか。

事務局 ワークショップでは、参考とすべき具体的施策の事例に関する話はなかった。ただ、事業者同士で意見交換する場やマッチングする場が欲しいという声があったことから、そうしたプラットフォームのような場ができないか、他市の取組も参考にしながら、今後研究していきたいと考えている。

委員長 効果的な施策の事例は、プランニングの段階で学ぶことができる。また、そうした過程を市民に見ていただくことで、施策のイメージがしやすいといった長所もある。施策を市民に伝えて行く際、あるいは具体的な案を提案していく際、他市の具体例を挙げたうえで、射水市なりに適合させていくことが大切ということであろう。市でも情報収集を行っていると思うが、他市の事例を見ながら、もっと貪欲に施策に取り組んで欲しいというのが副委員長の意見であろう。

事務局 素案第8章～10章について説明。

委員長 このあたりは、委員の方々の所属組織と直接関係するような施策レベルの話になってくるが、意見があればお願いしたい。

委員 産学官金連携の新商品開発に関する支援は、他市でも補助金等により支援を行っている。実現していただきたい。

また、具体的な施策には提示されていないが、人材確保に苦慮している事業者が多い。国も労働生産性の向上を目標とし、IT導入補助金等を実施しているが、それでも不足の部分はある。市が注力すべき点を見極め、手厚く支援して欲しい。世の中の流れがそのような動きになっている今だからこそ、そうした補助を設けるべきであると思う。

市内企業団地分譲率は第10章(4)の目標であげているが、

第10章(6)の方がふさわしい。また、(4)の参加学生満足度については、満足度で図るのではなく参加人数の方がよいのでは。敢えてこれを入れた理由はあるのか。

事務局

産学官金連携の新商品開発支援については、現段階ではまだ検討中としか言いようがないが、必要性は十分実感している。

企業訪問バスツアーや合同企業説明会等については、学生集めに苦慮しており、周知方法等を工夫して、多くの参加が得られるよう努めていく。「学生の満足度」をKPIに設定した理由としては、昨今はなかなか人が集められない状況下で、参加する企業がどうしたら学生に関心を持ってもらえるか、企業の魅力を伝えられるかということに苦心している。それらの取組を通じて学生にどのような部分が参考となり、どのようなことが就職先を考える上で参考となったかということを確認していくことは重要であると考えている。

事務局

産学官金連携の新商品開発支援の補助金については、事務局としても必要な施策であると認識しており、平成31年度予算に組み入れることができないか検討している。

市内企業分譲率については、(6)の方が良いという意見をいただいたことについては、再検討していきたい。

委員長

「学生の満足度」に関しては、一つの指標で端的に示されているが、質も量も両方大切である。参加した学生と企業へのフィードバックも、事業の質があつてこそ高まっていくと思われるので、大事にしていきたい。

また、IT関係の補助だが、国や県の施策においても必ず抜ける部分はあると思う。お店や地域の情報をSNSに投稿する方法や写真の魅せ方、撮り方等を教える講座を行う自治体もある。そうした細やかな部分を補うものがあつてもいいのではないか。

委員

製造品出荷額が2014年度のデータが示されているのはなぜか。また、新設事業所(経済センサス)の意味合いは。

事務局

製造品出荷額については、最新データを確認する。新設事業所については、経済センサスが3年毎の調査となっておりその間の新設数である。

委員

新規の事業所というのは、企業ができたということか。

事務局

新規の企業数とあわせ、既存企業が市内に事業所を開いた場合も数値に含まれている。

委員長 事業所は、一つのオフィスを持てばそれで事業所という形になるが、その裏ではかなりの数の事業所の廃業が見られると思われる。また、製造品出荷額については直近のデータを確認し、使用してもらいたい。

委員 人材育成・確保について、有効求人倍率が高くなり大企業に学生が流れ気味となり、中小企業に人材が集まらないという問題が年々顕著になっている。市内には、高等教育機関も多くあり、そうした学生達が市内事業所に興味を寄せる施策や、数字にとらわれることなく中小企業として新規学卒者の入職数のような目標を掲げて、そこに近づく取組があってもいいのではないか。

委員長 人材確保は非常に大切である。第10章の指標をどのような目標値にするのか、しっかり検討してほしい。

今回の委員会での意見を踏まえて内容を精査し、パブリックコメントにより市民の方々の意見を募る予定である。本日の意見等の扱いについては、委員長と副委員長に預からせていただき、修正したものを皆様に示し、確認いただいたうえで、パブリックコメントを実施する予定である。

事務局 パブリックコメントは1月下旬、もしくは2月の月上旬頃を予定したい。またその頃に、第3回目の検討委員会を開催させていただき、成案という形で提示したいと思う。

委員長 本日の議事は、以上である。

(6) 閉会

竹内産業経済次長あいさつ

【将来像について】

委員長、副委員長と協議し、次のとおりの案とさせていただきました。

「地域資源を活かし 未来を切り拓く 射水の中小企業」

この案にサブタイトルを加え、市の独自性等を表現したいと考えています。

(将来像の考え方)

豊かな自然、地域資源、地域特性に恵まれた射水の地で、その維持、保全に取り組みながらも、様々なチャレンジをし、新しい未来、新しい射水を切り拓き、豊かな市民生活を実現していこう、という思いを込めています。

「地域資源」には、先人の技術や情熱も含まれ、「未来を」というフレーズには、これらの資源を承継し、次代を担っていく子どもたちへの期待という意味も含んでいます。